

歴史の記事に「時」を思う

駿河の前方後方墳・高尾山古墳、国家形成の時代像に二石

陽光新聞社・顧問 塩澤宏宣

台風一過の10月15日、読売新聞の文化欄に記載されていた歴史の記事を読み、日頃、考え巡らせている「時」について改めて考えてみました。

その記事を要約すると次のような内容です。

静岡県沼津市の高尾山古墳の完成は西暦230年ごろ。埋葬施設を確認すると、木棺の跡や大量の朱、中国製の銅鏡や鉄鏃などの副葬品が見つかった。

3世紀前半説をとれば、弥生の墳丘墓のころ駿河では整った形の前方後方墳が築かれたことになる…3世紀後半説をとれば、畿内で前方後円墳を築いたのとは異なる勢力、たとえ

ば、魏志倭人伝が邪馬台国と抗争した狗奴国が築いた可能性もある。

築造が3世紀のいつであろうが、畿内から離れた駿河に古墳があったということは全国的にも貴重で、日本列島の国家形成過程を解明する上で大きな意味を持つ、というものです。いささか引用が長くなりました。

3世紀といえば、まだ日本には文字がなかったころです。中国の歴史書・魏志倭人伝¹⁾に初めて日本(邪馬台国)が登場します。邪馬台国の所在は九州か大和かという論争は続いています。決着はつかないようです。この時代の中国は、魏・蜀・呉の三国志の時代です。私の好きな諸葛亮(孔明)が活躍します。いつのころか、何の影響かは忘れましたが、気がつけば諸葛亮の大ファンになり、男に生まれたからにはこのような人物になりたい、と思うようになっていました。

諸葛亮、字は孔明、山東琅邪・陽都の人。生家は漢代以来の名家であり、地方に声望をもつ豪族であったが、早くにして両親を亡くし、戦乱を避けて荊州に赴き、自耕しつつ学問に精進した。その名声を聞いた蜀の劉備が「三顧の礼」をもって迎えた。207年のこ

とである。孔明はこの知遇に感じて、以来、死に至るまで股肱の臣として仕えた。

赤壁での勝利の後、天下三分の計をもって、劉備は四川の地に蜀を興し、漢の再興を願う。劉備亡き後も後継の劉禅を助け、国政に手腕を発揮して国力の充実をはかった。自ら軍勢を率いて貴州・雲南を平定し後顧の憂いを絶ち、存亡を賭けて魏に決戦を挑んだ。劉備の知遇に報い、その意志を貫いて北方の中原の地を回復し、漢を旧都に帰すためである。しかし、彼の北伐は5度に及んだが利あらずして成功せず、234年、五丈原の陣で病に倒れた。54歳であった。

孔明を戦術家とするのは事実誤認である。政治家というのが適正だ。政治家の孔明は、志をたてて終生誠実と公正を保持、汚濁の世に稀に見る高潔な人格者として、その評価は古来まったく変わっていない。

「三国志」(正史) 著者の陳寿は下記のように述べて激賞した。

「諸葛亮は宰相となると、百姓²⁾を撫し、儀軌(手本)を示し、官僚を取り締まり、適宜の政策を実施して、誠心誠意、公正な政治を行った。真心を尽くし国家に利益をもたらした者は、仇敵でも賞を与え、法を犯し怠慢な者は、親族であっても処罰した。罪に服し反省する者は重罪でも釈放し、言い逃れをする者は、軽罪でも処刑した。…かくして人々はみな彼を敬愛するにいたった。

政治の何たるかを知る良才であり、管仲³⁾や蕭何⁴⁾にも匹敵するといえよう」

文字を持った中国は、司馬遷が「史記」を著わしてから歴史を文章にして残してきました。それに対して日本は、遺跡から発見される遺品でしか歴史を推察するすべを知りません。それはそれとして日本の歴史を紐解いてみましょう。

日本列島に人類が住み始めたのは3万年前といわれている。が、日本列島の文化遺跡からは10万年以前の石器などが発掘され、人類が存在したことがわかっている。日本列島は酸性土壌のため、その頃の人骨は残っていないが、3万年以降の後期旧石器時代の人骨は静岡県豊橋市の牛川町、浜北市、三ヶ日町などから発掘されている。また、大分県聖岳洞窟からは旧石器と一緒に人骨が出土している。これは約14,000年前とされ、研究者によるとこの人骨は骨

が厚く、後頭部の形などが北京郊外周口店の上洞穴出土の上洞人骨に似ているといわれる。

その後の発掘調査で沖縄本島の具志頭村港川から発掘された人骨が約18,000年前のものと判明。これらは華南の柳江人(広西壮族自治区柳江県)に類似している。おそらく氷期の海面が低下した時期に古モンゴロイドの一部が、中国大陸南部から沖縄や西日本に移住したと思われる。

一方ではこの古モンゴロイドが沿海州方面から北海道・東北地方へ流れ着いたことも証明されている。この二つの古モンゴロイドの集団は相互に異なる文化を担い日本列島に住みついて、その後の縄文時代を築く「原日本人」となる。

日本旧石器文化はいつ頃から始まったのか。

1949年に考古学に興味を持った一人の青年によって発見された一片の石器から日本旧石器文化の探訪が始まる。群馬県桐生市に近い「岩宿」遺跡である。岩宿遺跡から出土した土器は、24,000年以前の物と確認された。

この発見以来日本全国では3,000箇所以上の旧石器の遺跡が発見されている。「旧石器文化」という呼称は、ヨーロッパでは約1万年以前の時代・文化を指す言葉として定着し、アフリカ・印度・東南アジア・中国などでも定着している。

日本列島で最古の遺跡は宮城県北西部の江合川流域に連なる「座散乱木・馬場壇・中峰遺跡」で約14,000年以前のもの。

発見された石器にはナウマンゾウやオオツノシカの脂肪が付着していることがわかった。また使用痕(動物の角や骨、皮や肉の加工・調理)が認められた。狩猟生活を営むための貴重な道具として使用されていたことがわかる。

これらの石器を使用していたのは、地質学でいう中期更新世(ブライストシーン:氷河時代)にあたる時期で「旧人」の生存する時代。北京原人と同じ原人が日本列島にも存在していたのであろう。この時代の海面は現在よりマイナス100~70mであったから現大陸からは容易に日本列島に来ることができたと思われる。

日本列島の自然は現在のそれとは全く違っていた。東北から中部地方の山地には「針葉樹林(亜寒帯性)」

樹林に、関東・東海から西日本地方の低地は冷温帯落葉広葉樹林に覆われていた。長野県北部の野尻湖立ヶ鼻遺跡(4万~24,000年前)からはナウマンゾウとオオツノシカ、岩手県南部の花泉遺跡(2万年前)からは野牛やオオツノシカ、ナツメジカなどの獣骨が発見された。花泉遺跡からは中国北部から北上した動物群とシベリアから南下したものが共存していたことが分っている。日本列島への道筋が2本あったことは興味深いことである。

突然3万年前にタイムスリップしてしまいました。ここまで遡ってしまえば、文字を持たなかった時代の悲哀を感じません。日本人と中国人はいわば兄弟のようなもの。(黒潮の流れに乗ってポリネシア系の民族も日本列島に来たという説もあります)時代によっては相互に教え合う関係でもありません。昨今の関係は「兄弟げんか」ではないでしょうか。「夫婦喧嘩は犬も食わない」ならぬ「兄弟喧嘩は猫もなめない」……と思えばいいのでは？

〈注〉

- 1) **魏志倭人伝**(ぎしわじんでん): 中国の歴史書『三国志』中の「魏書」。当時、日本列島にいた民族・住民の倭人の習俗や地理などについて書かれている。著者は西晋の陳寿。
- 2) **百姓**(ひゃくせい): 官位を持たない普通の人々或いは民衆を指す。
- 3) **管仲**(かんちゅう): 春秋時代、齊の宰相。司馬遷は管仲について、「一国の為政者は、四季を通じて生産計画を軌道に乗せ、経済の発展を図らねばならない。物資が豊富な国には、どんな遠くからでも人民は集まってくる。日々の暮らしにも事欠く者に礼儀をといたとてなんになろう。生活にゆとりができれば、道徳意識はおのずから高まるものだ」と述べている。
- 4) **蕭何**(しょうか): 漢の宰相。秦朝末期、項羽と劉邦が覇を競っていたとき、関中から劉邦軍に兵員や物資を送り続け3年も続いた「楚漢の戦い」で劉邦に勝利を導いた。劉邦が漢王朝を開いた後、その功績を第1位にしたという。